

[42] radix : 九州大学全学共通教育広報

<https://hdl.handle.net/2324/20407>

出版情報 : radix. 42, 2005-09-30. 九州大学教養部大学教育研究センター
バージョン :
権利関係 :





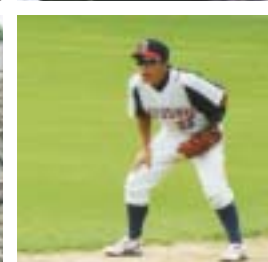
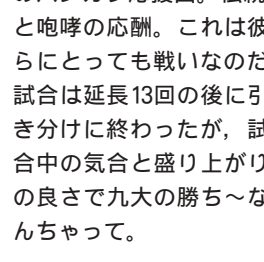
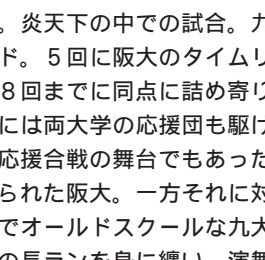
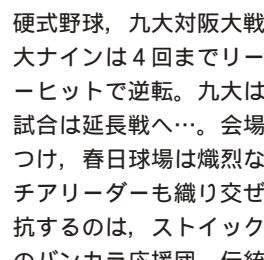
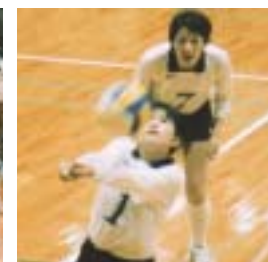
Radix

2005. 9. 30 vol.42
九州大学全学教育広報

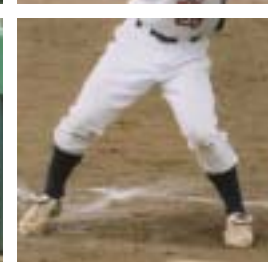
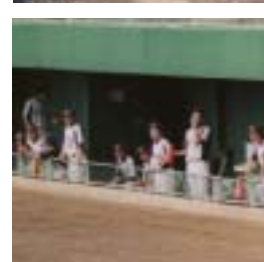
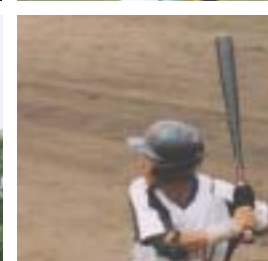
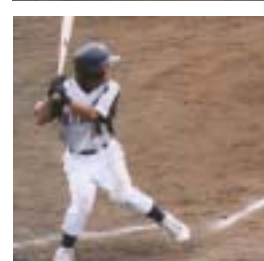
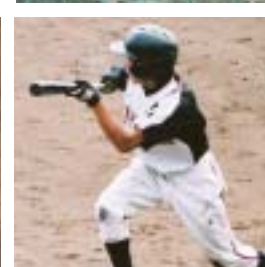
熱闘!! 七大学戦

今年の七大学総合体育大会は九大での開催!! 各会場には全国から集まったアスリートたちが熱い戦いを繰り広げました。その模様をほんの少しお届け!!

text&photo by 九大写真部

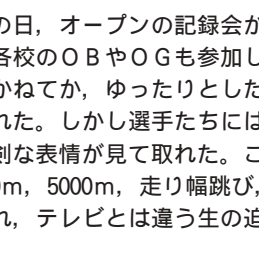
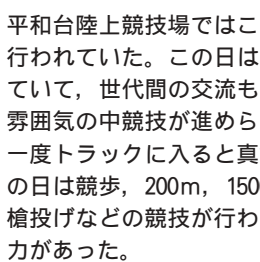
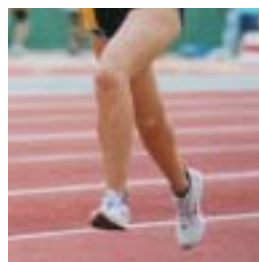
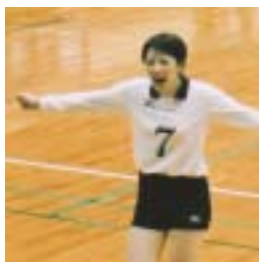


硬式野球, 九大対阪大戦。炎天下の中での試合。九大ナインは4回までリード。5回に阪大のタイムリーヒットで逆転。九大は8回までに同点に詰め寄り、試合は延長戦へ…。会場には両大学の応援団も駆けつけ、春日球場は熾烈な応援合戦の舞台でもあった。チアリーダーも織り交ぜられた阪大。一方それに対抗するのは、ストイックでオールドスクールな九大のバンカラ応援団。伝統の長ランを身に纏い、演舞と咆哮の応酬。これは彼らにとっても戦いなのだ。試合は延長13回の後に引き分けに終わったが、試合中の気合と盛り上がりの良さが九大の勝ち～なんちゃって。

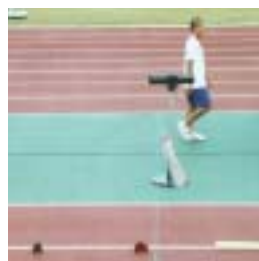


バレーボールの最終日、九大は好調な成績でこの最終日を迎えた。今日残すは2試合、男女共に今日まで全勝！優勝の期待がかかる。女子は見事なチームワークと熱いプレーで東北、阪大を下し見事優勝!! 残念ながら男子はこの日は不調で阪大、東大に苦汁をなめてしまった。

会場にはこの日も各校応援団が駆けつけ、チームの応援に混じって個性的な応援合戦が繰り広げられた。チーム一丸となって一球一球決まるごとにコートが湧き上がる。中には奇抜な格好で応援に参加する部員も登場。七大戦ならではの盛り上がりといったところか、楽しそうな会場だった。



平和台陸上競技場ではこの日、オープンの記録会が行われていた。この日は各校のOBやOGも参加していて、世代間の交流もかねてか、ゆったりとした雰囲気の中競技が進められた。しかし選手たちには一度トラックに入ると真剣な表情が見て取れた。この日は競歩、200m、1500m、5000m、走り幅跳び、槍投げなどの競技が行われ、テレビとは違う生の迫力があつた。



七大戦とは



工学部4年 田中 義人

こんにちは。第44回全国七大学総合体育大会実行委員長の田中義人です。1年生や体育会系サークルに所属していない方には耳慣れない名称かと思いますが、この大会は一大生として是非知ってほしいことなので、今回この場を借りまして説明したいと思います。

七大戦とは正式名称「全国七大学総合体育大会」の通称で、この大会は旧帝国七大学、現在の北海道・東北・東京・名古屋・京都・大阪・九州大学が毎年各大学持ち回りで、他大学を迎える主管となり夏をメインに（冬と春にもありますが。）様々な競技（今年は30種弱）を行って、その総合得点で順位を争うものです。普段なら各競技の結果が出ればそこで終わりなのですが、この七大戦というのはそこで終わるのではなく、各競技の枠組みをこえ、普段は全く別の部活生同士が同じ大学の名を背負い、大学の名前とプライドをかけて一致団結し母校の勝利という1つの目標に向かう、いわば各大学を挙げての体育会系サークルによる一大プロジェクトでもあります。

その歴史の紐をといてみますと、昭和37年北海道大会を第一回目として以来今年で44年目、この大会は学生達自らの手で守り受け継がれてきた歴史あるものです。このように、長年地を変え人を変え催されてきたこの大会が今年、ここ九州の地、我等が九州大学で行われています。主管校という今回、我々実行委員はもちろんのこと選手たちも例年以上の士気の高まりを見せ、あつい競技が繰り広げられています。皆さんはもうご覧になられたでしょうか？ われら九大生の勇姿、七つの大学の各代表選手が汗と涙を流し、ぶつかりあう様を。

まだ見た事が無い、今年は見逃した、という人は是非来年応援に来てください。部活動関連者に関わらず、九大生ということだけで、本大会に参加する資格は十分です。母校に錦を！！という方は、なんでしたら体育会系サークルに入って出場し、活躍してください。

皆さんの参加、出場、応援が七大戦をつくり、伝統としてつながっていくのです。



○エピソード

第44回大会、これは数字的にキリがいいわけでもなく、これだけ見ても今大会が七大戦の節目とは誰も思わないでしょう。

しかし、去年、七大学が国立大学の法人化に伴い、すべての大学で「試験日を夏休み前に統一しよう」という事になったらしく、それによって各サークルが今まで長いこと同じ時期にしてきた「七大戦の日程」これを変えざるをえなかったのです。今までより一月弱あとへ。

これが一苦労！もともと、テストと競技日程がかぶる事による苦情はクラブから出ていたために、会期移行はそこそこすんなりいくと思っていましたが、大間違いでした。今まで長くやってきていたため、それはそれで定着しつつあったのです。しかも、七大学は全国各地に点在していて、それぞれの地区でのリーグ戦が…。さらに言えば、そのリーグ戦は同じ日程ではなく、少しずつずれているところがまた憎…いやいや、他にも、大学の学部によって試験が夏休み明けに行われていたり、去年までの七大戦の日程を考慮して合宿を組んでいたりと少々複雑になっていました。

そのため、喜んで会期をずらしてくれた・ずらすことができたサークルと、移行について反対・日程をずらすのが無理なサークルとが半々くらいになってしまいました。それでもなんとか強行して、ある程度日程が固まってきた頃、慣れない移行のせいか、「○○大学がこれなくなったんですが…」と訴えてくるサークルがぼつぼつと。

…そんなこんなで日程の決定が大幅に遅れ、それによる会場の手配等の遅れなど、様々な困難がありはしたものの、なんとか開会式・各競技の開催を迎える事ができてほっと胸をなでおろしています。

最後に、来年は大阪大学が主管校となり、七大戦はまだまだ続いていきます。これを読んでいる人の多くは、第45回大会に関わってくると思います。来年、さらには今後の九大の頑張りを期待しています！

七 大 戦 裏 話



工学部4年 しの さき たかし
篠 崎 崇

七大戦は、主幹校の実行委員会が陣頭指揮を執って運営していくのですが、七大戦は七大学のものでからその最高決定機関には各大学の代表者が必要になります。それが、年三回各校持ち回りで行われている委員長会議と呼ばれるもので、各大学の体育会の委員長（または幹事長）が一同に集い、七大戦の予算を始めとする重要事項を決定していきます。この委員長会議は毎回二泊三日（そのうち本会議は6時間程度だが、全日程を通じて他大学との交流を図るイベントやレクリエーションを行う。）ほどで行われ、これに参加することは各大学体育会のもっとも重要な仕事のひとつになっています。さて、この委員長会議は年三回のうちの一回は七大戦の開会式に伴って行われるのですが、この夏九州大学で行われた委員長会議では本当にあたふたしてしまいました。

まず、一番大事な本会議に、試験や部活の試合で委員長が二人も出ることができないという事態に陥りました。そのうちの一人はなんとこの筆者であったりします（笑）。それだけで委員長会議に関する規定に引っかかりそうだったのですが何とかそれはクリアして無事会議を終えることができました。

そして、開会式当日ですがまたしてもヒヤリとさせられるハプニングが起きました。開会式では、参加された方はご存知だと思いますが、各校が掛け軸に漢字一文字で七大戦に賭ける意気込みを表すことになっています（これは去年の北海道大会から始まりました。来年からは一字だといつか過去の文字と重複してしまいそうだということで四字熟語にしようかという話もあります）。僕は部活の方でインカレに出られることになり、横浜に行かなければなりませんでした。そこで福岡を発つ前に、開会式で使う掛け軸は前日には作っておいてね、と言っていたにもかかわらず...開会式当日の会話→筆者「掛け軸できた？」総務委員K「あ、昨日会議とかで忙しくて作れなくて、今日作ることになった。」...あもう、今日こそそんな時間ないんですけど！開会式当日ですから...！それから大慌てで習字道具を買ってきて（なんて準備が悪かったんだろう

（泣））、他の大学の委員長と掛け軸に貼る文字を書き上げました。しかし、そのおかげで開会式のリハーサルの開始が大幅に遅れ、学務部の方々を何十分も待たせてしまうという事態に...！開会式の会場に到着したとき、皆さんからとっても重た～い雰囲気が...！学務部の皆さん、まことに申し訳ありませんでした！

最後に、特にヒヤリとさせられるということではなかったのですが、こんなことがありました。開会式のペナント交換（各校が主幹校と自作のペナントを交換し合う）では、いつもは大体B4～A4の紙くらいの大きさの布（フェルト等）を使って製作したものをしているのですが、今年はなんと、北海道大学はフライパン、東京大学は座布団をベースにしたものを用意してきました（笑）。開会式ではまあまあの笑いもおこりそれはそれで良かったのですが、ペナントを納めるおぼんを持つ係りの人が開会式のリハーサルの合間に一言...「あもう、重いんですけど（笑）」。なんとか最後まで無事に終えることができましたが、式の途中その人はずっとその重さに耐えていたそうです（笑）。来年からはペナントの規格を決めた方がいいかもしれません...



第44回全国七大学総合体育大会レセプションにて

九州大学は、第44回全国七大学総合体育大会で優勝しました。

第49回田島寮寮祭

薙(あさがお) ～咲き誇れ、刹那の空に～

田島寮寮祭とは？

今回で、第49回となる寮祭。毎年一年生が田島寮で経験する伝統行事である。5月22日の駅伝大会から始まりサッカーや料理対決など数々の種目を棟ごとに競い合う。最終的に1位は赤、2位は青、3位は黄のふんどしを巻いて神輿をかつぐことになるのだが、1位を目指して各競技の練習に励む一年生の姿には熱いものを感じる。大学生にもなってここまで熱くなれる機会というのは、この寮祭以外そうないであろう。



今年の田島寮寮祭を振り返って

第49代寮祭実長 嘉数 俊光



寮祭が終わった。無事に一ヶ月間やっていってくれるだろうか、初めはそんな不安ばかり持っていたが、一年生は見事にその不安を吹き飛ばしてくれた。どんな競技においても本気でぶつかっていく姿は見ている方まで熱くさせる。暑い中、痛みに耐えつつお互いに励まし合って神輿を担ぐ一年生には頼もしささえ感じた。この寮祭において彼らが得たものは何であろうか。おそらくそれは仲間であろう。共に闘い、共に涙する仲間、寮祭で築いた絆は普通の生活では得難いものであるに違いない。これから先の生活でもそのかけがえのない絆は彼ら自身の財産となるだろう。

第49代樽神輿局長 関 康博



「田島に入れてよかったです。」一年生から聞いて一番嬉しい言葉だ。私達二年生としては一年生を目一杯楽しませてやりたい。日々の生活やこの寮祭においても他の九大生とは違った環境にいる私達は、様々な経験ができ、その最たる例が寮祭である。この寮祭を通じて、私は一年生の素直さに触れることができた。そして涙を流した。素直なところでいる時ほど気持ちのいい事はない。この寮祭で感じた素直な心、いつまでも忘れてはならないものである。



来年に繋げたいこの熱い想い！

～田島寮1年生コメント集～

寮に入って、こんな経験をするとは思わなかった。この1ヵ月間を振り返ってそう思います。同じブロックの仲間と協力して、どこにも負けず、そして悔いを残さないよう、精一杯取り組んで来ました。この寮祭は絶対に一人で作り上げることは不可能です。そういった意味で私は、まわりの人間の大切さを改めて実感できました。

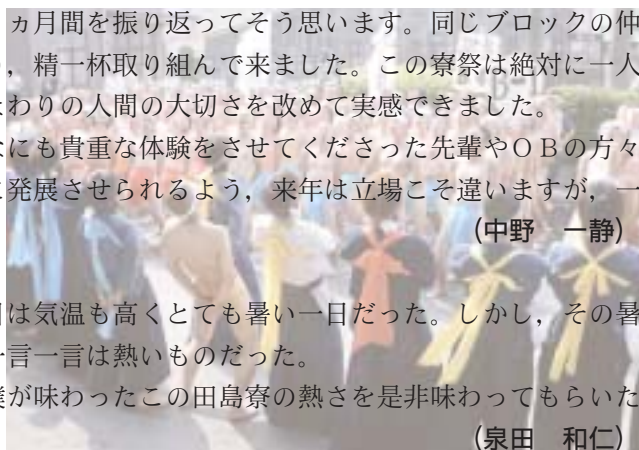
この寮祭を通して学んだことははかりしれません。こんなにも貴重な体験をさせていただいた先輩やOBの方々に深く感謝すると共に、これまでの伝統を受け継ぎ、さらに発展させられるよう、来年は立場こそ違いますが、一生懸命頑張っていきたいと思います。

(中野 一静)

約1ヶ月に渡る田島寮寮祭の締め括りである樽神輿。当日は気温も高くとても暑い一日だった。しかし、その暑さを吹き飛ばすくらい、神輿の上の先輩の気合いの入った一言一言は熱いものだった。

来年は僕達がこの寮祭を創る番だが、来年の一年生にも僕が味わったこの田島寮の熱さを是非味わってもらいたい。

(泉田 和仁)



世界・日本



ドイツ・インターンシップ研修

文学部3年 貴島美佳

ドイツでの一ヶ月間、私の毎日のはかつてない彩りに溢れていた。そう、あらゆるものに興味を示す幼い子どもたちには、まさに世界はこう見えているのではないかと思われるほどに。

私のドイツ・インターンシップ研修は、ドイツ語の講義中に回されてきた薄い一冊の冊子に始まった。外国語の講義では必ず一回は紹介される留学案内。ただ、そこにインターンシップという見慣れぬ文字が並んでいることが、何故かその時不思議なまでに私の目を惹いた。異国の地に生活する人々の何の変哲もない日常を、働きながら見てみたい。そんな衝動的ともいえる欲求が、それまで見向きもしなかった海外研修への一歩を踏み出させたのだった。

研修の希望が募られてから実際の出発まで、その期間はおよそ八ヶ月。大学に入って一年学んできたとはいえ語学力も低く、ドイツについての知識もゼロに近い私は、研修に向けての勉強会で少しでもそれを補おうと必死だった。そして、元々例年より少なめだった最初の希望者から一人減り、二人減り...とうとう研修に参加するのは私だけという予想外の状況に陥ったものの、2005年3月、とうとう私は念願のドイツへの旅立ちを果たすことができたのである。

当初の目的地は前回、前々回の目的地と同じレムゴという小さな町だったのだが、諸般の事情により予定は変更され、今回新たに私が滞在することになったのはバート・ケーニヒ郊外の閑静な地だった。一週間周辺の町を見学した後、三週間のインターンシップに移るというのが今回のプログラムであり、初めてのドイツにすっかり魅了された私は、興奮気味に初めの七日間を過ごした。見るもの聞くもの全てが珍しく、日本では気にも掛けられない小さな事柄にまでいちいち注目するので、毎日のはかつてないほど充実して感じられたものだ。

とはいえ、流石にインターンシップ初日には緊張していた。言葉に関する不安、専門知識に欠けていることへの不安は、やはり私の足を竦ませた。

この研修では、インターンシップ先については可能

な範囲で学生の希望が叶えられるようになっている。そこで私がインターンシップ先に希望したのは、福祉関係の施設だった。動機は至って単純で、日本と同様に高齢社会を深刻化させているドイツにおいて、老人たちがどのような暮らしをしているのか知りたいと考えたからである。最終的に私の希望はほぼそのままに叶えられ、受け入れていただくことになったのは、ハウス・カロリーナという名の老人介護施設であった。諸々の不安は尽きなかったが、望みどおりの勤務に少なからず期待も抱きつつ、私はインターンシップ第一日目を迎えた。



ハウス・カロリーナ

さて、言葉も碌に操れず、介護経験もない私が、ドイツの老人介護施設で一体何をしていたのか。その様子を紹介しよう。

まず、一日は通いでやって来るお年寄りを迎えることに始まる。思うように体の動かないお年寄りがコートを脱ぐのを手伝い、一通り皆が揃った頃に朝食の介助に入る。ハウス・カロリーナでは、日中介護を受けるお年寄りのための食事は朝、昼、そしてお茶の時間の一日三回あり、それぞれの食事で私は主にある女性を介助していたのだが、なかなか思うように進まず困惑することも度々だったのを覚えている。というのも、彼女はアルツハイマーを患っており、更に全く声を出さなかったため、果たして食事を続けたいと思っているのかどうかさえ判然としなかったからである。食事のたびにどうするのが最善なのか悩みつつ、取り敢えず時間の許す限りは彼女の食事に付き合っていたもの

世界・日本

だが、実際彼女がそれをどう感じていたかは未だにわからない。

彼女のゆっくりとした食事が済み、大方全てのお年寄りも食事を終えたことを確認すると、片付けと部屋の掃除をし、すぐに次の食事のための食卓の用意を行う。その後、集まったお年寄りと共に工作や音楽鑑賞、クイズ等を楽しみ、午後には昼寝をしないお年寄りと散歩や日向ぼっこをしながら帰宅までの時を過ごすというのが通常の日だった。

こうして改めて書き連ねると、老後ののんびりした生活に混じって穏やかに三週間が流れたように見えるが、実のところ、思い返せば何事もない一日というのはそう多いものではなかったような気がする。大半のお年寄りが程度の差こそあれアルツハイマーを患っているで、毎日何かしら思いがけない行動をとり、その対応に右往左往するのは日常茶飯事だった。まだ昼も過ぎたばかりだというのに集団で帰ろうとするのを止めるのは、咄嗟に言葉が浮かばない私には最後までかなり難しかったものだ。

しかし、何事もない一日がなかったというのは、そのようなハプニングに見舞われることがあったという以上に、毎日の生活に彩りを持たせるべく施設においては様々な意匠を凝らされていたということに由来しているものだったと思う。ある日には皆でカフェに向いてダンスをし、またある日には他施設のお年寄りも集まる感謝祭のパーティに参加した。お年寄りの誕生日会も賑やかに行われ、とかく日々はそう淡々と繰り返されはしなかったのである。お年寄りの楽しそうな顔から、そのような催しがいかに生活の上で必要なものであるのかは歴然としていた。

インターンシップをしながら数知れないものに出合い、その都度目を奪われて、三週間は飛ぶように過ぎた。私が過ごしたそんな忙しくも楽しい毎日、やはりハウス・カロリーナの人々の温かな対応あつてのものであったろう。同僚たちは冗談を織り交ぜつつこちらに気を配り、私が理解できるような話題を選んで話しかけてくれたものだし、お年寄りもジェスチャーを交えて笑顔で私のことを尋ね、たとえ私がその意味を理解できなくても、その穴をスキンシップで埋めてくれていた。そして何より、私がインターンシップする中で、時に躓きつつも何とか日々を有意義に積み重ねられたのは、一緒にインターンシップをしていたある少女によるところが大きい。

16歳の彼女はドイツの基幹学校の生徒で、一年間のインターンシップをハウス・カロリーナで行っていた。普段の様子からは歳相応の可愛らしい女の子、といった印象を受けるのだが、その印象からは意外なほどに、お年寄りの間ではこちらが目を見張るような働きをしていた。周囲に限なく目を向け、求められる行動を自分で判断してきびきびと仕事をこなす姿には感心させられることもしばしばだった。

そんな彼女はいつも、これまで聞いたこともない単語とジェスチャーを駆使しながら私に仕事を教えてくれた。語彙が恐ろしいほど少ない私にとって、彼女が発する仕事関係の言葉は声だけでは全く理解できないものも多くあったが、それでも意図した内容が最終的に伝わらないことはほとんどなかったといってい。言葉以外のコミュニケーションが果たしうるところの大きさを実感させられる瞬間だった。

しかし、言葉に限らないコミュニケーションの可能性がいくらあろうと、言葉が通じないということが人間関係を形成していく上での枷となるのは明らかなように思われたのも事実である。私には、周りの人々が何とか伝えようとして語ってくる内容はいくらか理解できた。しかし、思わず出てくる一言や他愛ない冗談を、わざわざこちらにわかるように根気強く話してくる人などそうはいない。そして、ドイツで感じざるを得なかったのは、その深い意味など探るべくもない言葉の遣り取りこそが、何より人と人とを繋ぐ架け橋の土台を築いているということである。



カフェでのひととき

ドイツ・インターンシップ研修は、私に日本では見落としてきたものをもう一度捉えなおす切っ掛けを与えてくれた。いつかバート・ケーニヒの地を再び踏み、ここで出会った多くの温かな人々と、とりとめのない会話に興じたいものだ。

「自分はどう生きたいのか？」

～キャリアデザインと自己分析のススメ～

学務部就職支援室 キャリア支援係長 もり
森
た
田
ゆう
裕
こ
子

1. キャリアデザイン～人生設計

皆さんは、「キャリア」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか？

「経験」？「経歴」？もしかしたら、「国家公務員 種試験に合格した中央省庁官僚」を連想した方もいるかもしれませんね。

実はこれから述べるのは、「就職」に関わるお話です。「就職」といっても、現在1～2年生の皆さんにはまだ実感がわかないかもしれません。実際、就職活動をしているのは3～4年生の先輩がほとんどでしょう。

しかし、決して遠い話ではないのです。なぜなら、現在就職活動中の先輩の多くが、「もっと早くから自分を見つめなおすべきだった」と感じているからです。

冒頭の「キャリア」とは、職業に関連して言うならば、「仕事を通じて蓄積される個人の職業経験と能力」と理解されています。

しかし私個人は、キャリアとは「人が生きていくこと」自体がそれであると感じています。

皆さんは、大学を卒業した後の自分を想像することが出来ますか？大学院に進学しているのでしょうか。企業や官公庁に就職しているのでしょうか。どんな内容の仕事をしているのでしょうか。

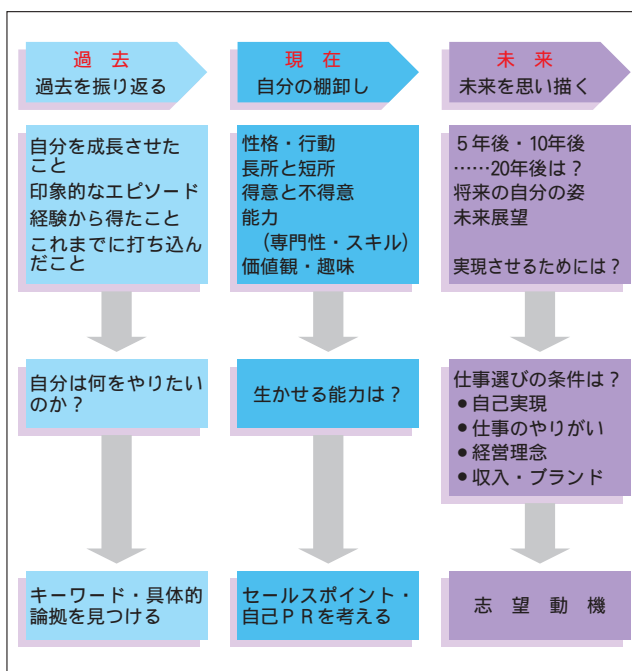
就職活動とは、企業や職種を研究するだけではありません。「自分が何をしたいのか」「自分は何ができるのか」即ち「自分は一体どんな人間なのか」を追求することがとても重要になってきます。

就職活動中の3～4年生には、この自己分析、言いかえると「自分自身の棚卸し」が不十分なために、自分に適した職業を見つけられない、あるいは企業への自己PRが適切にできず、不採用になる人も少なくありません。

キャリアデザイン（人生設計）は、いざ就職という時にあわてて考えても一朝一夕にできるものではありません。人生の早い時期から、常に自己分析と将来像を意識し、そのために今自分に必要な知識やスキルは何なのかを考え、身につけていただきたいと思います。

2. 自己分析

自己分析の基本は、下の図で示すように、3つの柱から成り立っています。



過去・現在・未来という3つの流れを踏まえると、これからの目標を定める糸口をつかみやすくなります。是非、今からでもキャリアデザインのための自己分析をはじめてみてください。

3. 就職支援室を活用しよう！

先に述べたとおり、就職を考えることは決して遠い未来ではありません。学務部就職支援室では、1～2年生の皆さんにも参加していただける制度やイベントが数多くあります。是非のぞいてみてください。

学務部就職支援室は、箱崎地区の事務局第二庁舎の2階にあります。ここでは、学生の皆さんの就職活動をサポートするために、就職相談、求人情報提供、就職支援イベントの開催などの業務を行っています。その一部を紹介します。

●就職相談

自分自身を見つめ、将来を考える過程で、恐らく多くの不安が生じることと思います。そんな不安や悩みに個別に対応するために、豊富な経験と専門知識を持った「就職相談員」による就職相談を実施しています。

一人で悩むよりも、きっと良い解決方法が見つかるはずです。お気軽にご利用ください。

《箱崎地区》		《大橋地区・筑紫地区》	
相談員	荒瀬 譲先生	相談員	服部ひろ子先生
日 時	毎週 月・火・水・木 13:00～18:00	日 時	(大橋)毎週月曜日 12:00～17:00 (筑紫)毎週火曜日 12:00～17:00



相談員による相談風景

●就職情報室（就職情報コーナー）

就職に関する様々な資料を設置しています。企業や官公庁からの求人情報などが数多く寄せられています。

箱崎文系地区法・経済学部演習棟 1 階

月～金 9:00～18:00(土日祝日・年末年始は休み)

●九州大学進路情報プラザ

皆さんが進路選択を考える際の参考資料を提供しています。主な展示資料は大学・大学院への進学情報ですが、就職関連の情報も公開しています。

また、専門の相談員による「進路相談」「就職相談」を実施しています。

九州大学50周年記念講堂 2 階（箱崎理系地区）

月～金 10:00～17:00

(水～金 昼休み13:00～14:00 土日祝日は閉館)

進路相談：月・火 12:00～13:00 14:00～17:00

就職相談：木 13:00～18:00

●キャリアガイダンス

皆さんが将来を考えるための参考になるガイダンスを次のとおり開催します。是非ご参加ください。

日 時	会 場	内 容	主な対象
10月19日(水) 16:40～	六本松地区 新1号館 N120講義室	人生と職業 働くことを中心 とした人生設計	学部1年生
12月7日(水) 16:40～	箱崎文系地区 201講義室	将来につな がる学生生活、 進学・就職	学部2年生
12月14日(水) 午後(予定)	箱崎文系地区 201講義室	企業経営者セ ミナー	学部3・4年生

●キャリアアップのための自己啓発プログラム

平成17年度の新しい試みとして、「自己表現能力育成プログラム」を6～7月に実施しました。マナーや敬語、面接に役立つ自己PRのトレーニングを行い、大変好評を得ることができました。来年度以降の実施についても検討中です。



おじぎの練習

●締切迫る！英語コミュニケーション講座

進学・就職に備えて、英語能力は是非身につけたいものです。

ビジネス英語を学び、TOEIC750点を取得するための英語プログラムを本年10月に開講します。募集締切は10月13日(木)です。このチャンスをお見逃しなく。

●問合せ先

これまでに紹介した情報は、九州大学のホームページで詳しく見ることができます。

九州大学HPトップから、「進学・就職」にアクセスしてください。

(<http://www.kyushu-u.ac.jp/top.php>)

問合せ先：学務部就職支援室キャリア支援係

〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10番1号

TEL 092-642-2262 FAX 092-642-2252

E-mail gagcareer@jimu.kyushu-u.ac.jp



緑豊かな筑紫キャンパスと総合理工学府

てら おか やす たけ
寺 岡 靖 剛

皆さん、九州大学筑紫キャンパスや大学院総合理工学府をご存知ですか？ 六本松地区を中心にキャンパスライフを送っている学部生の皆さんにとってはほとんど馴染みがなく、筑紫キャンパスはどこにある？どんなキャンパス？ 総合理工学府ってどんな教育研究を行っているところ？ などの疑問が即座に沸いてくると思います。この記事を通して筑紫キャンパスや総合理工学府を少しでも身近に感じて下さい。

筑紫キャンパス

筑紫キャンパスは、福岡市の南部に隣接する春日市と大野城市にまたがる地にあります。周囲には、県立春日高校、春日市、大野城市の小中学校や県立春日公園があり、周辺地域環境と調和した開かれたキャンパスとして、文教及び健康・憩いの場として整備されたこの地域の中心的存在となっています。

筑紫キャンパスは、東に宝満・三郡・若杉連山、西に背振・金山連山を擁し、南に水城と天拝山に抱かれ

た古の歴史の舞台の真只中にあり、福岡市の中心部から春日市、大野城市、太宰府市にまたがる福岡平野のほぼ扇の要の位置にあります。JR 大野城駅に隣接し、西鉄白木原駅からも近く、九州自動車道の大宰府インターチェンジや福岡都市高速道路の水城料金所から 1 km と交通至便の地にありながら、学問の府として相応しい静けさと落ち着きをもったキャンパスです。

筑紫キャンパスの敷地面積は約257,000m²で、平成17年10月1日開校予定の伊都キャンパス(約1,165,000m²)を除く既存のキャンパスでは、箱崎キャンパス(約456,000m²)、病院キャンパス(約314,000m²)に次ぐ3番目に広いキャンパスです。皆さんが日々勉学に励んでいる六本松キャンパス(約89,000m²)の約3倍の面積があります。建蔽率(建築面積/敷地面積)は13%、容積率(総床面積/敷地面積)は31%です。箱崎(22%, 61%), 病院(24%, 84%), 六本松(18%, 53%), 大橋(23%, 74%)の各キャンパスと比べると、筑紫キャンパスがいかにゆとりのある開放感



あふれるキャンパスであるかがわかると思います。

筑紫キャンパスが九州大学の第4のメインキャンパスとして利用が開始されてから約25年が経過しました。現在は、1つの大学院（総合理工学府および研究院）、2つの研究所（応用力学研究所、先導物質化学研究所）、3つのセンター（健康科学センター、中央分析センター（筑紫地区）、産学連携センター）や、電離気体実験施設、総合研究棟（筑紫地区）、附属図書館筑紫分館などの施設があり、約600名の学生と約300名の教職員が教育研究活動を行っています。研究院と研究所・センターが融合した大学院教育と研究を展開する九州大学の中でも特色あるキャンパスです。



総合理工学府

総合理工学府を紹介する前に、九州大学の大学院制度について簡単に触れておきます。大学院の教育研究組織を「研究科」と言いますが、九州大学では平成12年度から大学院の教育組織としての「学府」と教員が所属する研究組織としての「研究院」とに分離し、相互の柔軟な連携の下に教育と研究を推進しています。総合理工学府は大学院教育組織ですが、他の多くの学府と異なる点があります。例えば、法学府（法学部）、医学系学府（医学部）、工学府（工学部）、生物資源環境科学府（農学部）などの学府は、それぞれカッコ内の学部をその基礎に持っています。しかし、総合理工学府には基礎となる学部がありません。このような大学院組織を独立研究科と呼びます。総合理工学府の前身である総合理工学研究科は、理学と工学及びその融合分野を対象とした学際的教育研究を行うことを目的に、1979年（昭和54年）に全国で2番目、九州大学としては初めて設立された25年余の歴史をもつ独立研究科です。

総合理工学府は、組織としての大きな特徴が2つあります。一つは学府教育を担当する教員組織です。総合理工学府での教育の責任部局である総合理工学研究院と最先端研究の推進を本分とする2つの附置研究所

（応用力学研究所、先導物質化学研究所）に所属する教員を中心に構成され、大学附置研究所が参画した大学院独立研究科（学府）としての特徴を活かした先端理工学研究の遂行とそれを通じた大学院学生教育を行なう特色ある大学院組織である点です。もう一つは、学生の出身大学の多様性です。これは、基礎学部をもたない独立大学院組織であることに起因しています。九州大学出身学生の割合が約40%（修士課程）で、半数以上の学生が九州・山口地区を中心とした全国の大学や高专から集まっています。因みに、理工農学系の大学院修士課程の自大学出身者割合の全国平均は約85%（平成15年度）です。新しい大学院教育に求められるものの一つに、異なる学修歴を持つ学生の中で互いに切磋琢磨しながら自らの能力を磨いていく教育研究環境とそのための学生の流動性の拡大が謳われていますが、総合理工学府（研究科）では学生の多様化、流動化に対応した大学院教育を25年にわたり実施し、成果を挙げています。

総合理工学府は、量子プロセス理工学専攻、物質理工学専攻、先端エネルギー理工学専攻、環境エネルギー工学専攻、大気海洋環境システム学専攻の5専攻からなり、入学定員から見ると、九州大学の16学府の中で2番目（修士課程）、4番目（博士後期課程）に大きい学府です。環境と調和した持続可能な社会を支える科学技術の構築とこの分野で活躍できる人材の育成を推進する総合理工学府の教育・研究目標は、以下の総合理工学府が求める学生像と育成する人材像に集約されます。

求める学生像：広く全国の大学や外国の大学出身者及び職業経験者で、物質、エネルギー、環境をキーワードにした環境共生型科学技術に強い興味と問題意識を持ち、十分な学力と勉学意欲を備えた学生

育成する人材像：物質、エネルギー、環境およびその融合分野における環境共生型科学技術に関する高度の専門知識と課題探求・解決能力を持ち、持続発展社会の構築のためにグローバルに活躍できる技術者や研究者

静かで季節折々の自然豊かな開放感あふれる筑紫キャンパスに是非一度足を運んでみて下さい。お待ちしております。
（総合理工学研究院）

+++++ サークル紹介



芸術工学部裏千家茶道部 ～お茶を一品いかがでしょう～



芸術工学部 3年 ^{まるやまけい こ}丸山敬子

芸術工学部 3年 ^{おおみね み ほ}大峯美穂

「茶道」というと一見地味に思われがちなのですが、実は茶道に興味を持っている人は多いようです。というのも、「侘び茶」と言われるように、独特な美意識を持つ茶の湯の世界は日本の文化を凝縮したもので、その奥には宇宙のような深い広がりを持っています。

しかし、その地味さ故に茶道には「堅苦しい」イメージがつきものです。そんな誤解を振り払い、この魅力をみなさんに伝えたい！...ここでは茶道歴10か月の部員の体験を紹介します。

●入ったばかりの頃... 少し前に入部した友達に誘われて見学に行きました。初めての茶道で道具の名前すら知らない私は、とにかく「習うより慣れる」状態でした。そんな中、先輩方の所作の美しさ、お茶を点てる先生のマッハな手の動きにはただただ感動するばかり。おいしいお茶とお菓子(クッキーもありみたい!)和やかな空気に癒され、気が付くと部員に...

●はじめての学園祭茶会... 「山」のテーマに沿って、紅葉の川や竹の花入れを手作りし、会場に秋の山を演出しました。会場づくりも大切なおもてなしの一つ。たくさんのお客さんに好評をいただきました。今回はお運びだけでしたが、凛とした着物姿で客をもてなす先輩方には釘付けでした。

●振り袖でお正月... 茶道の新年会にあたる「初釜」は、大人数ではじめての本格的な茶会でした。初釜には「はなびらもち」という、白あんの入ったお菓子を頂きますが、なんと和菓子にごぼうが入っているとは。これも医食同源の精神からなんだそうで、和菓子も奥が深いです。素晴らしい道具や様々な着物、先生のお点前、また先生や外国の方、小さな子供、そして市長さんまで、いろいろな人とふれ合い、充実した一日でした。

●卒業祝いお茶会... はじめてもてなす側になり、初心者同然の私たちは、先生の御協力を得て、毎日のお稽古のできる限りのことを1か月で詰め込みました。失敗ばかりでしたが、先輩たちの喜ぶ姿で、もてなすことの大変さとそれ以上の楽しさを知りました。

本当はもっと先輩たちと一緒に過ごせたら...と思いつつも、この一日は一番の思い出になりました。

●そして現在... 少人数になってしまった私たちは、手探り状態ではありますが、毎回のお稽古が新しく知る事ばかりでわくわくしています。「とりあえず」覚えてきた所作の一つ一つの意味を知り、そこに垣間見る長い間に培われてきた合理性に驚きながらも、昔の人の細心の心配りに、毎回感動しています。

かの有名な千利休が「茶の湯とはただ湯をわかし茶を点てて 飲むばかりなる事と知るべし」と言ったように、本当に大切なのは美を感じる心と相手への心遣い。美しい所作を身につけるだけでなく、自分を磨くことも大きな目的です。日々退屈な方も、茶道をはじめたら、何気ない日々のちょっとした風景も変わって見えてくるかもしれません。そして知らず知らずのうちにどっぷり浸かっていることでしょう。この楽しさをぜひ、みなさんにも知ってほしいと思います。

また私たち茶道部は、またの名を「現代茶道部」といいます。まだまだ小さな部ですが、茶道の精神は受け継ぎながらも、新しい事、良いと思う事を自分達で考え、自由な発想で取り入れる、そんな柔軟で積極的な活動をしていきたいと思っています。

既成の概念にとらわれすぎず、新しい事にチャレンジしたい方、日本の奥深さを堪能したい方、そして、ちょっとお茶が飲みたい方も、一度遊びにきて下さい。もちろん、学科、学年問いません。お茶とお菓子を用意して、いつでもおまちしております。

毎週水曜日 午後6:30～

@大橋キャンパス厚生棟3階第5研修室(和室)
<j03133km@edu.kyushu-id.ac.jp>



サークル紹介



柔道部 紹介

文学部 3年 さか 酒 とく 徳 しゅん 俊

人生は出会いによって切り開かれる。
出逢わなければならない出逢いが、ここにあると思う。

週に6日の部活。
練習はキツイ。

伝統を継ぐということ
高専柔道を伝えるということ
それが旧帝大生としての
使命であり
誇りである。

最後の学生生活。やり残したことはないか

「本気」になれること
「本気」に値すること

探してるんだろ。

練習 場所・時間

月・火・水	貝塚体育館	17:30~20:00
木・金	六本松体育館	17:30~20:00
土	六本松体育館	14:00~17:00

闘わなければならないとき、
闘えるということ。
大切だと思う。

九州大学柔道部

●九大柔道部の部屋

<http://members.at.infoseek.co.jp/kyudai/top.htm>



平成17年度 七大戦優勝

九大山の家改修（大分県玖珠郡九重町筋湯） — 05. 7. 20 改修完成披露式より —

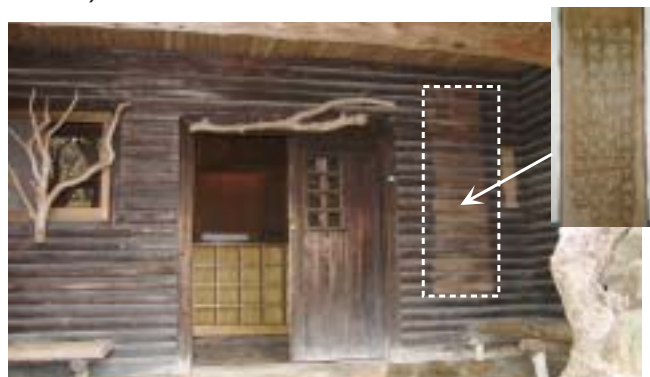
「故 事」1937年（昭和12年）7月に建設の九大山の家については、かつての九大学友会関係者の建築経緯関連資料が残されていたが、建築後50年余を経た老朽建物を憂う立場から、その状況を山の家讃歌、追憶の記事として起稿したのは、1994年（平成6年）春から夏にかけてであった。当時、「山の家物語」に目を通した人々の中には、かつて九大で学びあるいは学生と共に親しんだ昔日の青春を回想し、なお山を家の存在に熱い手紙を寄せる人もあって、その存在の貴重さは再認識されたように思えた。以来、その意義の再興に向け次第に学内の意志が束ねられ、大学独立行政法人化による困難な財政ハードルさえ越え、創設当初から多大な貢献の地元・筋湯地区の変わらぬ賛意もあり2005年7月新たな装いで山の家は復活した。山の家来歴を復唱した「山の家物語」（1994年・radix.no.2）は本願完結の思いである。

本稿では旧・山の家の変容ぶりを、「リニューアル山の家」の姿を通じ僅かでも紹介した。

1. で今はなき昔日の姿を、2. 3. で改修後のカット写真を、4. で1の補足紹介をした。
1. 「懐かしの面影」（末尾4. で下の写真6枚の思い出記事を付記）



イ. 山の家玄関口



ロ. 玄関正面



ハ. 東側外観



ニ. 玄関奥の廊下



ホ. 洗面所出口から浴室階段への通路



ヘ. 中央談話室ベランダ

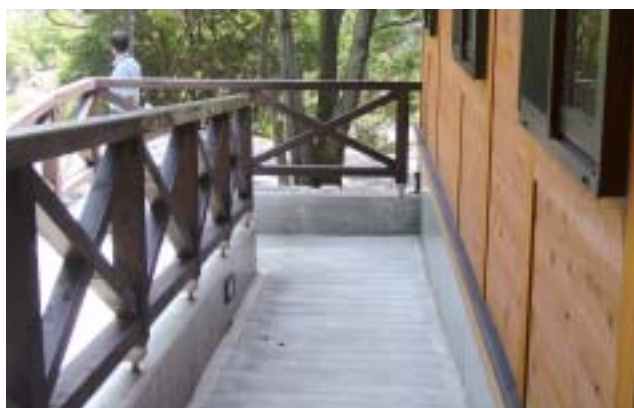
2. 「新装・九大山の家（一）」



1. 正面玄関



2. 玄関前雰囲気



3. 4. 玄関前スロープ



5. 玄関口内から



6. 玄関内ロビー天井構えと照明具



7. 玄関内の右手和室の出入口



8. 玄関ロビー南側見通し（左角は奥へ中央廊下）

3. 「新装・九大山の家 (二)」



9. 居室東側外観



10. 11. 玄関付近の遠景



12. 居室床外観 (高床式)



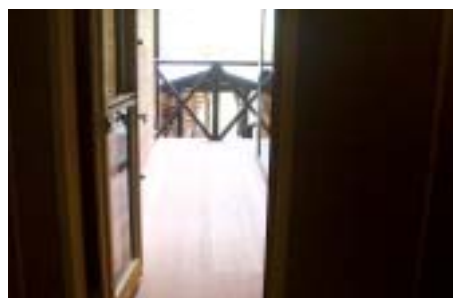
13. 居室前廊下



14. 一般男子トイレ



15. 談話室横通路の採光天窓



16. 左写真の出入り通路 (浴室へ)



17. 特別専用トイレ



18. ベランダ



19. ベランダ前から浴室階段へ



20. 洗面所



21. 談話室内とベランダ



22. 浴室への新装階段



23. 洋室 (奥の座敷研修室を全面改造)

(注記) 山の家周辺風景 (地獄遊歩道・牧の戸への急坂) など割愛した。

4. 「1.懐かしの面影」写真6葉（イ～ヘ）の補足紹介について

A



B



イ. 旧玄関名残 1：創建当初は正面玄関屋根下に孟子の「君子三つの楽しみ」の漢詩から引用した施設名称「三樂臺」（さんらくだい）の横扁額がかけられていた。命名・筆跡は当時の荒川文六総長自らであった。下隅に記名がある。今では貴重な史料として別途保管されると聞いている。（現物・左写真A）。

ロ. 旧玄関名残 2：右隅の壁に縦長の白い影が残るのは、孟子の漢詩本文を刻んだ長大な掲額が掛けられていた跡。木彫書体は当時の法文学部西洋史の長壽吉教授の揮毫で、立派な額体（縦180cm程）の寄贈は、九大第4回卒業生である。イ同様別途保管という。原文が明瞭に読み取れるので若い学生の皆さんの後学のため紹介した。（現物・左写真B）。

ハ. 玄関内すぐ左手の板の間に卓球台が置かれていた。卓球台のある部屋から奥へ廊下伝い左右に、番号室から順に居室が並んでいた。電球がなければ昼間も薄暗い部屋で窓辺の大きな蛾は夏の山の雰囲気があった。写真はその東側外の様子で、浴室へ降りる通路が見えている。写真の左手は地獄の噴気が立ち昇る遊歩道で木橋の先は今も変わりはない。

ニ. 解体直前の廊下の静けさである。廊下の左右に居室が向かい合っていた。改修後は廊下左側に居室が並び、廊下右手はベランダ風デッキやトイレ・洗面所などが一まとめに合理的な配置となった。

ホ. 朝の洗面所は狭い中で混雑した。狭い洗面所奥の戸口から、浴室へ降りる階段があり写真はその外観である。

ヘ. 中央に談話室の一角がありその外のベランダの、在りし日の風景である。

かつてのこの談話室は、その名の場所としてより奥座敷研修室と玄関寄り居室の連結地帯の雰囲気があり、居室を少し離れて息抜きの、緩衝地帯のような雰囲気が似合っていた。奥座敷の和室研修室は、書院造り風の床の間の雰囲気が今は懐かしく思い出

される。そこは改修で新しい洋室2室などに生まれ変わり生活様式の変化にそった部屋構成になった。

以上、山の家改修（17頁）「懐かしの面影」6枚の写真について、特に思い出を付記した。（空閑^{くが} 龍二^{りゅうじ}）

☆九州大学九重研修所（山の家）の利用について

九州大学九重研修所（山の家）は、九州大学の学生、教職員及び元教職員であればどなたでも利用可能です。利用料金、申込方法等詳しいことは下記のホームページでご確認ください。

（九州大学 HP）<http://www.kyushu-u.ac.jp/top.php> → 学生生活 → 学生関係施設 → 山の家

※なお、不明な点がございましたら、TEL 092-642-2245（学務部学生生活課総務係）にお問い合わせください。



自分と付き合う

～相談室カウンセラーからのメッセージ～

ふく ども る み
福 留 留 美

私は日頃カウンセラーという仕事を通して学生のみなさんに接していますが、そこで一つ二つ気付いたことを書いてみようと思います。

◆青年期とは自分が自分の親になる時

親元を離れて一人暮らしを始めた人は、以前よりも自分の好みを重視して、生活を送るようになったと感じているのではないのでしょうか。また、実家から大学に通っている人も、付き合いやアルバイトのために、中・高校時代と比べて家族と行動を共にする時間が大幅に減ったという人が多いのではないのでしょうか。

このように青年期は、それまで自分を育ててくれた家庭や家族という枠から徐々に離れ、新たな価値観を取り入れた基盤作りがいよいよ本格的になる時期と言えます。それは意識してそうしようと思わなくても、日常的に起こるでしょう。たとえば、クラスのコンパに参加して、いい気分になって2次会まで行きたいと思っても、親がそれを快く思わないという場合です。どちらかを選択すると、もう一方は犠牲にしなければなりません。友人との語らいを取ると、家族の不機嫌な顔に耐えなければなりません。それには、かなりの勇気が要りますし、強いストレスにもなります。一人暮らしの場合、ここまで如実にその葛藤を意識せずすむかもしれませんが、何らかの折に、それまでの家庭の価値観と新しい生活で培った考えとがぶつかり、苦しい思いをするということが起きるかもしれません。

私の経験から言えることは、青年期以降は、現実の親から精神的に離れ、今度は自分が自分の親になって自分を動かしていく力がますます必要になってくるということです。迷いや痛みを伴いますが、親や他人の期待に左右されることなく、自分なりの人生の歩みを進めるためには、自分で自分の舵取りをできるようにになっていることがとても大事だと思います。

◆「自分という馬に乗っている」と想像してみる

次に、一生付き合わなければならない自分との関係について考えたいと思います。年を重ねる毎に、人は自分とも他人とも付き合うことがだんだんと上手になっていきます。若い時には深く考え込んでいた事柄に、

あまり拘泥しなくなり、いい加減さが身につく、一般に生きやすくなるようです。経験を積む中で物事を捉える視点が増え、先鋭化しなくなるからでしょうか。

経験が浅く、特に理想の高い学生期は、望むように成果を出せないことが珍しくなく、その結果、自分の中に原因を探し、自分を責めることもよく起こります。自分に原因を探すこと自体は、更なる向上へ向けたエネルギーを生むので、一概に悪いとは言えません。しかし、自分を必要以上に追い込み過ぎると、意欲的なエネルギーまでも消耗させ、枯渇させてしまいます。そうならないように、自分との付き合い方を若い時から知っておくのは意味のあることだと思います。

その一つの方法として、私はよく相談に来られた人に「自分という馬に乗っている自分」を想像してもらいます。そして、乗り手である（主体の）自分が馬である（客体の）自分にどのような態度で接しているかを考えてもらいます。馬によい食べ物や水を与えているか、休息を十分に取っているか、努力した時には褒めているか、失敗した時励ますこともしているかなど、自分への態度を比喩的に点検するのです。この方法を用いると、自分という馬がなるべく元気であるためには、どうしたらいいか分かりやすいと思います。あなたは、自分という馬にどう接しているのでしょうか。

◆自分の特性を探りながら、上手に長く付き合う

さらに馬とよく付き合うには、自分という馬の特性を知らなければなりません。また、どの馬も同じではないということを忘れてはいけないと思います。初めからスピードを出して走れる馬もいれば、後からだんだん追い上げてくる馬もいます。好みも違えば、その歩き方にも違いがあると思います。これを忘れると、どの馬も同じように進むはずだという危険な勘違いを起こしてしまいます。少し意識的に立ち止まって、このような自分の特性を考えてみるようにすると、自分や他人との付き合い方が分かってくると思います。自分という馬とは一生の付き合いですから、できるだけ上手に愛して仲良く連れ添っていききたいものです。

（学生生活・修学相談室 カウンセラー）



薬物依存について

いち みや あつし
一 宮 厚

九大では、最近、禁止薬物に関する不祥事が続いてしまいました。まず、大麻を栽培した大学院生が大麻取締法に抵触して逮捕され、学半ばで大学を去りました。その後、覚醒剤を使用した教員がホテルで訳の分からないことを叫ぶなどしたために通報されて逮捕・起訴に至り、免職されました。このように、禁止薬物に手を出したために犯罪者となってしまう、社会的に転落しその後あわれな人生を送るであろう人々...こうした人が我々の大学から出てしまいました。

最高学府の頭脳集団...世間には疎いかも知れないが、知、真実、そして合理性を何よりも信奉して研究生活をおくっているはずの人々...までが“薬物に汚染されてしまっている”と、マスコミは半ば興味本位に書き立て、世間の人々はほんの一部の不心得者によって汚された九大の姿に失望したことでしょう。

そしてまた今年、九大生のなかに大麻を使用していた者がいることが大々的に報道されました。この学生達は逮捕や起訴は免れたらしいのですが、誰なのか明らかになっていません。つまり、九大生であれば誰にでも嫌疑がかかってしまうかのような、謂わば九大全体が疑われるような事態に陥ってしまいました。再三の事件に、世間の人々は、九大は一体なにをやっているのだとほんとと呆れたことでしょう。九大に所属する者としては、本当に情けなくイヤなことだと思ってしまう。

しかし一方で、こうした人は、罰せられたかどうかとは別にして、これからさき果てしなく覚醒剤や大麻の魔力との報われない闘いを続けなければならない可能性が強く、哀れむべき状態にいます。これらの禁止薬物の常習者になると、地獄のような薬漬けの生活から抜け出ることが本当に難しいからです。

筆者は健康科学センターに所属する精神科医です。医師は病気という不条理な不幸を日々目の当たりにします。薬物依存は結局、乱用した本人の個人的な責任なのとは言え、悲惨な精神障害に陥ってしまい、そこからはい上がろうとしつつも難しく、結局は精神病院以外では生きていけなくなった患者さんがいます。

彼等の多くは、覚醒剤それにアルコールのため身を持ち崩しています。

大麻は覚醒剤につながる薬物依存の入り口になっています。大麻では満足しなくなり、より強い刺激を求めて覚醒剤に手を出し、ついに覚醒剤精神病を発病するに至り、いつ再発するか判らない幻覚や妄想、訳もない不安などにとりつかれてしまって精神病院の中で生活を送っているのです。

もし甘い認識しかもたず、世に流布する「大麻は割に大丈夫」などという甘言を鵜呑みにしてしまうと、我々の誰もが悲惨な結末に至る危険性があるのです。滅多に起こらないことでも、一旦起こると取り返しのつかない不幸をさけるよう、我々の社会は努力をしています。著しい弊害をもたらすと分かっている物質も使用を禁じています。禁止しなければ危険に気づかない人、それに意志の弱い人が多いからでしょう。

九大のある福岡市や隣の北九州市は都会化が進んでおり、市民生活のごく傍に歓楽街そしてその裏には欲望と邪悪な心が形作る違法な社会が存在しています。ごく近くに、一時の快楽と引き替えに終生続く苦しみをもたらす可能性のある依存性薬物が誰にでも手に入られる環境があります。人の弱みを資金源としている裏社会が巧妙にそれを作っています。あなたの好奇心やふとした心の緩みにつけ込んで、あなたを餌食にして暴利をむさぼりたい輩が、依存性薬物の魔の手を伸ばしているのです。

• 薬物漬けの地獄のような生活 … 薬物依存

薬物を繰り返し使用してしまい、それ止めることができなくなった状態が薬物依存です。

何故そんなことになってしまうのでしょうか。一つには、薬物により生じる快感が繰り返し欲しくなるためです。欲求が抑えられない。こうした依存は、薬だけではなく、食べることで起こりますし、ギャンブルでも起こります。依存性がある物質としてもっとも我々の身近にあるものはタバコつまりニコチンです。禁煙できずにいる人は世の中に何と多いことでしょう。

そして、そういう人は、しばしば喫煙を正当化するような発言をします。でも、実のところは禁煙したくてもできずにいる依存症の人が多いいです。

依存性薬物の多くは、繰り返し使っているうちに効かなくなってくる耐性という性質をもっています。ニコチンはこの性質が少ないので、喫煙量は或る程度以上には増えないことがほとんどです。しかし、大麻や覚醒剤などは、次第に効き目が感じにくくなるので、そのうち大量に用いないといけなくなるのです。そうすると薬に耽ってしまい、しなければならぬ仕事や勉強が二の次になり、金もかかるのでまともな生活が成り立たなくなります。さらに恐ろしいことに、薬物を摂取しないと、逆に耐え難い不快に襲われるため、その不快を避けたくて繰り返し使わざるを得なくなってしまうこともあります。

初めは、遊びや気軽な気持ちで始めたり、自分は大丈夫と、たかを括って試してみたのが、悪魔に魅入られたかのように薬漬け地獄に落ち込んでいき、そこから抜け出せなくなるのです。続けることが自分にとって良くないと思い、もう止めたいと思っても、どうしても止められない。そういう自分が情けなくて、自己嫌悪から落ち込み、それを逃れるためにまた薬に頼る。こんな最低の生活に陥るのです。

・大麻（マリファナ）… 薬物依存への入り口

大麻は、薬物依存への入り口となる依存性薬物です。色々な呼び名を持ちますが、マリファナとは大麻草全体を乾燥させて刻んだもので、花卉部から分泌される樹脂はハシッシュと呼ばれます。

大麻を吸引すると、使用量に依存して様々な異常な精神状態が出現します。薬物の先進国であるアメリカの精神医学会の大麻依存の診断基準等を参考に、以下にその精神症状を書いていきます。

あらゆる感覚は鋭敏になり、色彩は明るく激しく感じられるといわれます。音楽に対しても敏感になり「音が見える」と表現した患者もいます。1人で使用した場合には僅かに眠くなるようですが、集団で用いた場合には高揚感や刹那的な満足感や多幸感にとらわれるらしいのです。周りの人に誰彼なく親近感が沸いてきます。訳もなく笑いがこみ上げ大笑いしたりします。これをグッドトリップといいます。そのためマリファナパーティという形をとる場合が多いのです。しかし一方で、さまざまなイメージや考えが湧き出て思考は散乱し、集中力も低下してしまいます。暗示に易

々とかかるようになり、無責任で無軌道な行動に走ってしまうこともあります。個人によって出現する症状は著しく異なり、パニックになることもあります。パニックとは、死ぬかも知れないという不安で不安でたまらない心境で、体験した人は大抵2度と味わいたくないと言います。これはパッドトリップと言われ、初心者には陥りやすいのだそうです。

大麻の常習者は、しばしば気怠さと眠気にとりつかれ喜びや楽しさの欠如に悩まされます。約1/3の人は、憂鬱な気分、不安、それに焦燥感にさえ苛まれます。やる気・根気がなくなるので長時間の勉強や仕事ができなくなって、当然のように社会からドロップアウトしてしまいます。さらに、一旦やめた後にもフラッシュバックといって、薬を使わなくても異常な精神状態が出現することがありますし、稀ですが一時的な妄想にとりつかれ不安に襲われ精神病になる人もいます。

大麻を使用すると食欲の亢進が起こります。したがってしばしば肥満になります。また、大麻には実はタバコよりはるかに大量の発ガン性物質が含まれています。つまり、大量に大麻を喫煙すれば、肺ガンのみならず呼吸困難や咳などに悩まされる慢性呼吸疾患になるおそれもあるのです。

禁止薬物は秘密裏に使用されるので、十分に信頼のおける統計資料はないでしょうが、或る外国の報告では、一度でも大麻を使用した人のなんと10%が大麻依存になってしまうとされています。あなたはこの頻度をどう思うでしょうか。考えてみてください。いくら美味しいからといって、10回に1度は赤痢にかかるようなレストランで食事をするのでしょうか？…美味ければ食べるかもという人がいるかも知れません。でも、大麻の問題は一時的なものではありません。ながく長く苦しめられることになるのです。楽しいからといって10回に1度は取り返しのつかない怪我を負うようなコースターに乗りますか？

大麻解禁の推進派には薬の恐ろしい影響からどういう訳か逃れている人があるようです。でも、そういう人たちの口車に乗って、依存症に陥り人生を台無しにする人がいることを忘れてはいけません。あなたが、大丈夫であるという保証はまったくないのです。人によって考え方は違うでしょうが、刹那的で異常な快楽に身を委ね、一生を台無しに危険に身をさらすことを、あなたはいいことだと思いますか？

(健康科学センター)



健康・スポーツ科学相談室を使ってみよう

はやし
林

なお
直 ゆき
亨

環境が変わった春は体がだるく、夏は夏ばて。ああ、何か運動でもして体力つけなきゃなあと思う。でもどうすればいいかわからないし、フィットネスクラブへ行くのも面倒だし、と思っている間に月日は流れ...こんな方は多いかと思います。

そんな方は一度健康・スポーツ科学相談室（以下、相談室）へ行ってみましょう。で、一体相談室って何？という方のために、相談室の業務内容について紹介いたします。

相談室では、運動を始めるきっかけ作りや、健康のための運動について、また競技のためのトレーニングについて健康科学センターの教員が相談に乗ります。もちろん、無料です。相談室で教員が相談を受け付けている時間もあります。相談受付の時間はセメスターによって変わりますので、六本松本館1階一番奥の相談室前の掲示を見てください。平成17年度前期は週に10コマの相談時間を設けていました。現在のところ、残念ながら来室者が少ないので、予約などは不要です。ただし、教員の専門によっては他教員を紹介することになりますので、予めメールで連絡してから来室頂くことをお勧めします。

教員が不在の時間については以下のメールアドレスで相談を受け付けます。

hn01@ihs.kyushu-u.ac.jp（相談室長 林宛）

内容に応じて、健康科学センターの教員が回答します。教員の専門性などから、回答できる範囲は以下の内容が中心となりますが、調査の後日回答したり、専門の先生を紹介することも可能です。ただし、医学的な相談は健康相談室へ願います。

相談室には運動器具はありませんから（机・椅子、テレビとビデオだけ）、普通の格好で来てください。

誰が対象？

九州大学に在籍する、教職員、学生、大学院生を対象にしています。ですから、このradixを読んでいるあなたが相談できます。是非利用しましょう。もちろん、六本松キャンパス以外の方もメールを使うなど

して相談してください。

どんな内容？

もちろん、各人が相談されたい内容になりますが、学生、大学院生、教職員からは以下のような質問があるかと想定しています。

【学 生】

1年生後期からは実習科目での必修がなくなり、どうやって実際に運動したら良いのかを迷っている方も多いでしょう（身体運動実習を履修するというのも手ですけど）。体力不足を実感していても、限られた時間の中でどうやって運動を実施したら良いのか見当が付かないという方は、是非相談してください。運動が健康維持に有効だということは健康・スポーツ科学実習と講義で習っているはずですが、それを実践する段階で何か問題を抱えているようでしたら、実践の後押しをすることができますと思います。

もちろん、体育会に所属している学生には、様々な面からの支援が可能です。密かに相談室を利用して、ライバル達を抜き去ってしまう、というような賢い？利用方法もあるかもしれません。種目によっては、技術指導が可能な場合もありますので、聞いてください。

ちなみに、現在は体育会学生からの相談が最も多いです。筋力増加の方法について栄養指導を含めてかなり具体的な相談をした例もあります。

【大学院生】

大学院生は運動不足になりがちです。運動不足を解消したいけれど、どうしたら良いかわからない、少しの時間でもできる運動を教えて欲しいなどの質問にお答えします。

【教職員】

教職員にも利用して頂きたいと思います。実際の運動種目を教えることは難しいですが、ライフスタイルにあった運動や健康維持の方法についてのアドバイスが可能です。上級者ですと、フィットネスクラブに行っているけれど、どうも何かが上手いかわからない、というような悩みもあるでしょう。そんな悩みも解消でき

るかもしれません。

どんな相談？

運動，スポーツ，健康の維持，体力の増進などといったことに関する内容であれば，ウェルカムです。教員側は以下のような内容を得意としています。

【競技力向上を目的としたもの】

トレーニングの科学
トレーニング計画
スポーツ栄養学
筋力トレーニング
長距離トレーニング
心理的トレーニング
マッサージ
敏捷性のトレーニング
ストレッチ
チームマネジメント
リーダーシップトレーニング

【健康維持・増進を目的としたもの】

スポーツ栄養学
筋力トレーニング
ウェイトコントロールのための運動プログラム
マッサージ
ストレッチ
リラクセーション法

各種トレーニングビデオの閲覧も可能です！

相談室員在室時に限りますが，以下のビデオ・DVDの閲覧が可能です。他の時間については，ご相談ください。

【内容一覧】

ラバーバンドトレーニング（ゴムチューブを使ったトレーニング）
自分で見つけるスポーツ障害



相談室入り口：六本松本館の一番奥にあります。暗いところですが，気軽に入ってください。

ストレッチ

器具不要のウェイトトレーニング

クライオキネティクス（疲労回復）

筋肉コンディショニング（オクタントトレーニング）

ダンベル運動

メンタルトレーニング

筋力トレーニング

テーピング

敏捷性のトレーニング

バランストレーニング（スタビライゼーション）

パワートレーニング

スポーツ栄養学

その他にも！

体育会サークル単位でのトレーニング指導も行っております。また，学外の専門家を招いて講習会を行うこともあります。最近では体育会サークル向けに敏捷性のトレーニングや水分・栄養補給に関する講習会を開催し，大変好評でした。

トレーニングをして競技成績を向上させる方法や，運動を通じて健康になる方法についての書籍は沢山売られています。しかし，それらの方法をきちんと実践できる方ばかりではないでしょう。「時間があまり取れないが，こういった運動がいいのか」「こういった身体能力が必要だが，どのようなトレーニングが必要なのか」というような個別の対応を書籍から学ぶことは容易ではありません。相談室では経験豊富なスタッフができるだけ個別の事情に即した相談を目指しています。健康・スポーツ相談室が運動・スポーツを介した九大学生・教職員の健康・体力の向上に資することができれば幸いです。

（健康科学センター・運動生理学）



相談室内部：ビデオとDVDが揃っています。ここで視聴することが可能です。もちろん，相談もここで受け付けています。



最近の全学教育授業評価にみる数学科目の問題点

かざ ま ひで あき
風 間 英 明

平成10年度始まった学生による全学教育，数学科目の授業評価で，「黒板を写すのが精一杯で説明を理解するところではなかった」という回答が40数パーセントあり，何らかの対応策が必要とされた（九州大学「改革サイクル」2001年より）。これを受けて，当時の鎌田数理学研究院長による全学教育数学担当者全員に授業改善を促すメッセージが出された。その後，自己点検・評価専門委員会は平成14年に「全学テーマ別評価自己評価書「教養教育」」の中で，数学科目については「黒板を写すのが精一杯で説明を理解するところではなかった」という学生の指摘については，改善のきざしが見えると報告した。

さて，その後この点の改善は“きざし”だけでなく，真の改善へ向かったのか？ この疑問について，平成15年後期，16年前期，16年後期の「九州大学全学教育・学生による授業評価データ一覧」で調べてみた。これらの一覧では，「黒板を写すのが精一杯で説明を理解するところではなかった」という項目はないが，項目「F 6：授業の進行をゆっくりしてほしい」と項目「F 7：理解度を把握して授業を進めてほしい」がそれに近い項目といえる。これらの項目をマークした百分率を各科目について見たのが次である。

ただし，基礎科学科目 は基礎科学科目 の全部の集計結果である。

	平成15年後期		平成16年前期		平成16年後期	
	F 6	F 7	F 6	F 7	F 6	F 7
基礎科学科目	17.7	25.5	23.9	30.4	18.6	25.6
線形代数 A, B	20.1	26.1	24.0	32.8	22.0	31.3
線形代数 概要			30.5	39.1	21.6	25.2
微分積分 A, B	19.3	21.2	25.8	31.3	18.8	19.7
微分積分 概要	45.5	41.6	35.3	46.1	30.2	23.1
微分積分 入門	29.6	55.6	64.6	56.3	59.5	47.3

項目が，複数マーク可能で，F 6 と F 7 の両方マークした学生がいると仮定しても，「微分積分概要」と「微分積分入門」の数字の大きさには，何に問題があるのか解明する必要がある。この両科目については，次の分析でもやはり問題が生じる。

元大学教育研究センター長押川元重氏は平成12年度前期と平成13年度後期の授業評価について次の分析を行っている。授業を受けて良かったと思うとする，6つの項目にマークした比率の合計を積極評価係数として，授業の改善について要望したいとする，15の項目にマークした比率の合計を改善要求係数として数学科目について，次の結果を得た。

	積極評価係数		改善要求係数	
	12年度前期	13年度後期	12年度前期	13年度後期
数学	115.3	129.4	215.7	167.3

これを見ると数学の場合，積極評価係数は上昇，改善要求係数は減少と良い方向に向かっている。この当時のアンケート項目数と現在のアンケート項目数は大きく異なるので，この当時のデータと比較するのは無理と判断し，平成15年後期，平成16年前期のデータ一覧で調べてみた。

項目「E 1：授業内容が今後につながるものだった」から「E 10：学者・研究者との出会いがあった」等の授業をプラス評価する項目 E 群のマーク率の総計を積極評価係数とする。また項目「F 1：授業のテーマ・目標を明確にしてほしい」から「F 21：補講を行ってほしい」等の授業の改善要求に対する項目 F 群のマーク率の総計を改善要求係数とする。

	積極評価係数		改善要求係数	
	15年度後期	16年度前期	15年度後期	16年度前期
基礎科学科目 1	162.0	152.6	170.4	200.5
線形代数 A, B	160.6	138.9	187.1	221.8
線形代数 概要		144.3		220.0

微分積分 A, B	199.6	159.0	149.6	185.6
微分積分 統 論		167.4		120.1
微分積分 概 要	124.5	111.9	242.5	298.1
微分積分 入 門	96.3	104.4	264.0	489.9
数 理 統 計 学		200.6		97.6
数学基礎演習		245.3		165.5
数学基礎演習	202.4		90.0	
数学基礎演習		200.9		54.2

これを見る限り、数学科目について、積極評価が上がり、改善要求が下がっているとは見て取れない。

教員と学生密着型授業「数学基礎演習」については、学生の授業評価は大変高いことがわかる。また「数理統計学」の授業評価も大変高い。

このデータでも微分積分概要と微分積分入門については、授業評価が低いことがわかる。微分積分概要と微分積分入門は、半期で完結する点で共通点がある。

しかし線形代数概要もこの点では同じであるが、授業評価は多少良い。

線形代数概要の場合、高校で学んだ初等的な線形代数の知識は仮定せず、大学に入って初めて線形代数を学ぶと想定されて講義されているのではないかと。少なくとも私が線形代数概要を講義したときはそうであった。

以前、経済学部経済・経営学科は、微分積分概要か、もしくは微分積分入門を履修することが求められていた。当初高校で数学を履修していない学生は微分積分入門を履修し、数学を履修している学生は微分積分概要を履修することで出発した。この方針は結局破綻した。やはり高校で数学の受験勉強していない学生に、大学に入って数学の知識を仮定して講義することには無理があった。

現在は経済学部経済・経営学科については、高校で数学を履修していないと仮定して講義する微分積分入門を一律履修することになっている。

微分積分概要は、医学部医学科、歯学部、農学部で必修科目である。私の経験からすると、微分積分概要と微分積分入門の場合、とにかく時間が足りない、従って詳しく説明することが出来ない。この点は授業評価が低い一つの原因かもしれない。学生側にも問題があるのではないかと。質問D「あなたはこの授業の理解修得のために予習・復習を含めて努力しましたか？」に対する項目D3：どちらとも言えないD4：あまり努力しなかったD5：ほとんど努力しなかったの3つの項目をマークした合計を調べてみた。

	平成15年後期	平成16年前期	平成16年後期
微分積分概要	46.3	33.3	56.3
微分積分入門	49.8		46.0

これを見る限り学生側にも受講姿勢に問題ありと言えよう。教育者としても、私が最も信頼している数理の教員の一人A教授は数理FDで名言「基礎科学科目としての数学の標準は学生から文句がでてもこれ以上上げない方がよいと考えています。数学は学問としての性格上講義をきいてすぐわかることはありません。自分の頭で問題を解き、教科書と格闘してはじめてわかるのです」「学生の努力不足で、家で復習をやっていない者が40%以上もあり、これでは数学が理解できるはずはありません」を与えている。

この原稿の締め切りには間に合わないが、微分積分概要と微分積分入門を必修指定している学部毎の分析をする必要がある。さらに後期日程や、AO入試での数学科目の取り扱いの違いも考慮した分析が必要になるであろう。その分析をもとに平成18年度から始まることになっている半期で完結する「微分積分学（微分積分概要と微分積分入門を一つにした科目）」の学部毎の実情に合わせた柔軟な対応を考える必要がある。

平成18年度から“ゆとり”教育を受けた学生が入学する。微分積分概要、微分積分入門の現在の状況がすべての他の数学科目に起こることが危惧される。

授業評価は「良い授業」の共通認識があり、その「良い授業」からどれくらい外れているかを見ているとしたら、「良い授業」の定義が必要になる。ところが「良い授業」については、数理教員の共通認識は得られそうもない。教育者としても、私が最も信頼している数理の教員の一人B教授は「わかりにくい勉強する気になる講義」を常に目指しているそうである。またこの教授の意見「授業評価結果は授業にフィードバック出来るように、出来るだけ早く発表してほしい」は、全学教育の規模を考えるとなかなか実現は難しいと思われるが、この原稿の最後に今後の課題として書いておきたい。

(数理学研究院)

「学生による授業評価」— 言語文化科目Ⅰ (英語) アンケート結果

まつ 村 よし こ
松 村 瑞 子

平成16年度前期・後期に実施された「学生による授業評価」のうち、言語文化科目 (英語) のデータを紹介する。言語文化科目Ⅰ (英語) は、現在大まかに言って以下の6種類に分けられている。

- 1 インテンシブ英語演習 : 1学年の授業。クラスを名簿順に20~25人程度に分けた小クラスでの授業。
- 2 英米言語文化演習 : 1学年の授業。クラスを時間割表のブロック別に名簿順に70人程度に分け「共通教科書」*A Passage to English* を使って行う大クラスでの授業。
- 3 総合英語演習 : 1学年のクラス単位 (50人程度) での授業。
- 4 インテンシブ英語演習 : 2学年の授業。学生自身が予め提示された授業シラバスを見て選択した20~25人程度の小クラスでの授業。(人数制限があるため第1希望以外のクラスのこともある。)
- 5 英米言語文化演習 : 2学年の授業。学生自身が予め提示された授業シラバスを見て選択した60~70人程度の大クラスでの授業。(人数制限があるため第1希望以外のクラスのこともある。)
- 6 英語特別演習 : 1年~4年を対象とした再履修クラス。100人~150人の大クラスでの授業。

以上の種類別に、回収率および質問C, D, E, Fの回答率の平均を以下のようにまとめて紹介する。

質問C あなたのこの授業の欠席回数は? (Ca: 欠席なし+欠席1回, Cb: 欠席2回以上)

質問D あなたはこの授業修得のために予習・復習を含めて努力をしましたか? (Da: かなり努力した+ある程度努力した, Db: どちらとも言えない+あまり努力しなかった+ほとんど努力しなかった)

質問E あなたがこの授業を履修してよかったと思うことは? (複数回答可) (授業内容が今後につながるものだった, 授業内容の構成が適切なものだった, 授業を通して調べる姿勢を獲得した等, 全部で11項目の平均の合計)

質問F あなたがこの授業の改善について要望したいことは? (複数回答可) (授業のテーマ・目標を明確にしてほしい, 予習・復習をするように促してほしい, 共通授業概要を尊重してほしい等, 全部で20項目の平均の合計)

	科目名	回収率	Ca	Cb	Da	Db	E	F
前期	インテンシブ英語演習	80.4	93.9	5.8	63.4	40.7	264.6	76.3
	英米言語文化演習	73.8	92.8	6.8	60.8	37.2	152.9	143.3
	総合英語演習	82.2	92.6	6.7	58.5	38.8	205.4	116.2
	インテンシブ英語演習	70.7	84.0	15.7	73.8	23.3	234.5	71.4
	英米言語文化演習	74.2	84.0	15.2	67.2	30.2	214.6	72.9
	英語特別演習	46.0	70.6	28.5	66.0	31.3	225.7	63.5
後期	インテンシブ英語演習	77.4	84.8	14.4	68.8	28.8	243.3	76.5
	英米言語文化演習	68.1	91.3	8.4	52.0	45.4	127.7	151.4
	総合英語演習	73.1	84.7	14.6	56.0	40.7	197.2	79.2
	インテンシブ英語演習	69.1	79.7	19.8	76.1	20.3	225.4	92.6
	英米言語文化演習	62.7	77.8	21.4	63.5	33.2	219.4	58.7
	英語特別演習	51.8	67.3	32.3	68.6	27.1	180.6	68.3

回収率が前後期ともに5割前後であり、1年～4年までの学生が受講する英語特別演習（再履修クラス）については、他のクラスとはかなり条件が異なるため、別個に数値を見ている。回収率が低いと熱心に授業を受けていた学生のみが授業評価を出したためとも言えるが、英語特別演習への評価は意外に高い。前期については質問E（授業のよかった点）への回答率はインテンシブ、に続いて3番目、また質問F（授業改善への要望）については一番低いという結果が出ている。後期についても、質問E（授業がよかった点）については5番目であるが、質問F（授業改善への要望）については前期と同様一番低い数値となっている。いろいろ問題にされてきた授業ではあるが、この学生の授業評価からしても、全学年・全学部に渉る英語再履修者を引き受ける授業としては、かなり効率よく機能しているのではないかと考えられる。

上記の理由で英語特別演習を除いてみると、質問D（予習・復習を含めて努力をしたか）のうちDa（かなり努力した+ある程度努力した）の割合が高いものは、前期はインテンシブ英語演習、英米言語文化演習、インテンシブ英語演習、後期はインテンシブ英語演習、インテンシブ英語演習、英米言語文化演習の順である。少人数のインテンシブ英語演習、については予想通りであるが、英米言語文化演習（2年生の選択クラス）については、かなり健闘している。

質問E・Fについては、必ずしも実際の授業の良し悪しを反映したものではないが、大まかな傾向は読み取れる。質問E（授業のよかった点）にマークした割合は、前後期ともインテンシブ英語演習が一番高く、次いでインテンシブ英語演習が続いており、小クラスでの授業の満足度が高いことが分かる。小クラスがよいことはアンケートをとる前から分かっているのだが、スタッフや教室の数を考慮すれば、大クラスも作らざるをえないのが現状である。その中で、大クラスではあるが学生の満足度をある程度保ちながら不満を最小に抑えている授業として、英米言語文化演習がある。この授業は、学生が教員の出したシラバスを予め見た上で選択したものであり、また教員も自らが一番よいと考えるテキストおよび教育方法で行う授業だからであろうか、質問F（授業改善への要望点）の割合は、前期はインテンシブ英語演習について低く、後期が一番低い。更に、質問Eについても、前後期ともインテンシブ英語演習と殆ど同程度の満足度を示している。今後の授業編成に向けて参考にすべき数値であろう。

自由記述欄を見て感じるのは、ここに何を書くべきかについての指針がある程度必要ではないかという点である。2004年度からは削除されたが、2003年度後期のデータ一覧に書かれている内容を見ると、「いかにライティングやリスニングを自分が軽視していたかということの思い知らされた。英文の書き方についての総括的な説明は的確だった」のように教員にとって励みにもなるような記述もある一方で、「ネイティブの人を連れてきてほしい。授業を駅前留学っぽくしてほしい」「皆でゆかいにすすめるべき」のように大学の英語教育に何を期待しているのだろうかと考えさせられるような記述も数多くある。私自身の授業についての自由記述についても、「教材がただの英語ではなく、看護に関することだったのがよかった。とても分かりやすい授業だった」のような記述をしてもらえると、もっと授業を向上させようと思う。一方で、自由記述の是非を考えさせられるものも数多くあった。ある授業の自由記述欄に3～4枚「外人はいらない」というのがあった。一瞬「外国人の先生に対する授業評価が間違えて私のところに来たのか」と思ったが、直ぐに分かった。この授業は、共通教科書 *A Passage to English* を用いて行う70名前後の授業で、毎週小テストを行い、それを評価に含めることになっている。私のクラスには、留学生がTAとして小テストの試験監督を手伝ってくれていた。そのTAは欧米からの留学生であり、通常の欧米人と同様不正行為に対しては厳しい態度をとっており、不正行為をしようとしている学生は答案用紙を取り上げたことが数回あった。その結果が「外人はいらない」となったのである。このTAが「何故あのようなことをするんでしょうかねえ。」と言っていたのを思い出す。学生による授業評価は教員の授業を改善するためのものであった筈である。もしこの自由記述を今後も続けるならば、授業改善につながるようなコメントを書いてもらいたいものである。

(言語文化研究院)



「都立日比谷高校界限」

photo 前田 豊(弁護士・1972年法学部卒)

表 「壁面をおおうツタの根源」

古い土蔵の壁面と石垣をツタが一面に覆っています。場所は東京、都立日比谷高校です。

一面のツタも、もとをたどれば、石垣の狭い隙間から生えてきた一本の幹だということがわかります。たとえ環境が厳しくとも、たくましく根をはり、幹を広げ、大空に向かって枝を広げて行けば、存在感のある作品ができます。人の一生もまた、その人の作品。存在感のある作品を作り上げることができれば、どんなにいいことでしょう。

裏 「新坂」

日比谷見附から日比谷高校に上がる坂が新坂です。ツタの土蔵は新坂を上ったところにあります。

昔、都立日比谷高校は俊秀が集まり、地方の高校生にとっては遠いあこがれの地でした。高校生は、学問への思いを胸にこの新坂をのぼり、学問を究めてこの新坂をくだったのでしょうか。息苦しくなるほどにその思いが伝わってきます。

私が九州大学に入学したときも、「求めん 求めん ああ 真・善・美」という九大の歌がとても新鮮に感じられたものでした。学ぶということは自分を育てること、古いかもしれませんが、いつの世にあっても真・善・美を究めたいですね。

あ と が き

初校を読んでいて私も関係する数学の授業評価の記事が目を引きました。「わかりにくい勉強する気になる講義」が理想ですが、成績評価を考えるとなかなかそう言い切ることが出来ません。また、うまく講義出来たと心から思えることが実は数少ないことを考えると尚更です。1年で習う微分積分の難所は昔から無限を取り扱う論法なのですが、私に限らず多くの同僚教員にとってもやはり難所だったようです。数学はどれをとっても講義を聞いてすぐにわかるような代物ではなく、だからこそ面白いというのが我々の実感で、そう考えるとやはり「わかりにくい勉強する気になる講義」が理想です。夏の夜にこんなことをあれこれ考えていたら、足下で愛犬がいつもの調子で眠っていました...

編集委員とは名ばかりの私が改めて感じたことは事務の皆さんの献身的な努力です。担当係の方には色々お世話になりました。ありがとうございました。(Y. U.)

第44回全国七大学総合体育大会

熱闘!!七大戰	九大写真部...	2
七大戰とは.....	田中 義人...	4
七大戰裏話.....	篠崎 崇...	5

第49回田島寮寮祭

嘉数俊光 関 康博 中野一静 泉田和仁...	6
------------------------	---

世界・日本 23

ドイツ・インターンシップ研修

貴島 美佳...	8
----------	---

「自分はどうかしたいのか？」

～キャリアデザインと自己分析のススメ～

森田 裕子...	10
----------	----

緑豊かな筑紫キャンパスと総合理工学府

寺岡 靖剛...	12
----------	----

サークル紹介 35

九州大学準硬式野球部紹介.....	山内 聡...	14
-------------------	---------	----

芸術工学部裏千家茶道部

丸山 敬子 大峯 美穂...	15
----------------	----

柔道部紹介.....	酒徳 俊...	16
------------	---------	----

九大山の家改修.....	空閑 龍二...	17
--------------	----------	----

自分と付き合う

～相談室カウンセラーからのメッセージ～

福留 留美...	21
----------	----

薬物依存について.....	一宮 厚...	22
---------------	---------	----

健康・スポーツ科学相談室を使ってみよう

林 直亨...	24
---------	----

学生による授業評価

最近の全学教育授業評価にみる

数学科目の問題点.....	風間 英明...	26
---------------	----------	----

- 言語文化科目 (英語) アンケート結果

松村 瑞子...	28
----------	----

「都立日比谷高校界限」.....	前田 豊...	30
------------------	---------	----

投稿・写真歓迎

編集委員会では radix への投稿、紙面を飾る写真を募集しています。あなたが関わっている様々な活動、六本松地区や「全学教育」にまつわる出来事、六本松の思い出など、六本松や「全学教育」に関するものであれば何でも結構です。

表紙写真も、キャンパスでのもの、旅先でのものをはじめ、あなたの作品、ぜひ紹介したい知り合いの作品など、広く募集しています。応募、推薦の対象は六本松や「全学教育」に関わりのある全ての方です。

radix 学生モニター募集

編集委員会では radix に対する学生の意見・要望を聞くためにモニターを募集しています。また学生編集委員も募集しています。募集は常時行っています。

投稿、写真、学生モニター・編集委員の応募は下記で受け付けます。

編集委員 植田 好道 (数 理 ☎726-4773)	大津 隆広 (言 文 ☎726-4668)	岡崎 晴輝 (法 学 ☎642-4447)
(05年度) 片山 繁樹 (事務室 ☎726-4504)	小山 紘三 (高研セ ☎726-4585)	坂井 貴子 (大学病院 ☎642-6371)
杉山 佳生 (健 セ ☎583-7856)	田中 健夫 (高研セ ☎642-4802)	谷村 禎一 (理 学 ☎642-4759)
西野 常夫 (比 文 ☎642-4600)	矢向 正人 (芸 工 ☎553-4549)	
高等教育企画係 (事務室 ☎726-4525・4526)		

A photograph of a stone wall with a large tree and a building in the background. The wall is made of large, irregular stones and is covered with green moss. A large tree with green leaves is in the foreground, partially obscuring the wall. In the background, a building with a gabled roof is visible. The scene is set in a park-like area with a paved path and a yellow pedestrian crossing sign.

radix (ラーディクス) No.42 (九州大学全学教育広報)

発行日 2005年9月30日

発行所 九州大学高等教育総合開発研究センター
〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 726-4525・4526

Fax (092) 726-4530